

27

文書課

明治九年三月廿一日  
同 明治九年三月廿一日  
日 起 草  
日 終 遣

片尾

明治九年四月二日 接書



主任

吉内 隆丸

板倉

第50號

西園寺

清海 和正 付

外務省

送日英事は未だ、  
 前未定に案を造、  
 洋宛多リ、  
 在清に出、  
 事、  
 理由、  
 其後、

MT. 3.1.1.39

132

MT. 3.1.1.39

131

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

外務省

三村の四三郎に宛てた手紙の断片

MT. 3.1.1.39 134

MT. 3.1.1.39 133



文書課長

明治九年四月二日

再

明治九年四月二日 日發遣

送込

主任

終

西園寺公理

西園寺

西園寺

大連軍放件

28

外務省

大連軍放件、件、間、目下陸軍大

軍、以下、中、有、件、合、

軍、支、十、十、決、定、上、右、体、左、記、

保、項、是、十、語、解、出、十、十、十、十、

海、軍、上、十、十、十、十、十、十、十、

外、部、十、十、十、十、十、十、十、

十、十、十、十、十、十、十、

MT. 3.1.1.39 136

MT. 3.1.1.39 135

3-0029

0405

一 國庫法目ニ於テ 碼頭橋  
昔ノ使用規則ヲ定ムル

二 國稅ニ進テ 印子ノ義ヲ定ムル  
長稅トス

三 北鏡 北先案石料 碼頭橋  
ノ使用料者ニ於テ 稅ヲ定ム  
ヲ國庫科者ニ於テ 之ヲ徵收ス

外務省

7

四 外子人ニ在テ 國庫稅者ニ於テ  
之ヲ定ム

五 外子人ノ 耳利子ノ 進テ 國庫稅者  
ニ於テ 之ヲ定ム  
ノ 耳利子ノ 進テ 國庫稅者  
ニ於テ 之ヲ定ム

二二

MT. 3.1.1.39 138

MT. 3.1.1.39 137

六知子、不詳産子宿振ニ付テ  
此レ何カノ義ヲ乞フトシ者カノ  
向一年又二年ヲ隔リ同車所  
習ニテテ漢漢ヲ抄ス

外務省

MT. 3.1.1.39 139

3-0029

0408

29

機密 號外

大連開放ノ件

空 馬 交 3

重 本 出 報

大連開放ノ件ニ関シテハ軍事上ノ差支ノ有無ニ  
 付曰下陸軍大臣ニ照會中ニ有之矣 処右愈  
 差支ナキコトニ決定シタル上ハ大体左記ノ條項ニ基  
 キ諸般ノ準備ヲナシ右準備整ヒ次第曰港  
 對シ外國人及外國船舶ノ出入ヲ許ス 標榜反  
 右至急清國議至也

一 關東總督ニ於テ碼頭棧橋等ノ借用現  
 外 箱

則ラ定ムルコト

二 國稅ハ進テ何カノ義ヲ定ム迄無稅トナ  
 スコト

三 屯稅水先案内料碼頭棧橋ノ借用  
 料等ハ相當ノ額ヲ定メテ關東總督ニ於  
 テ之ヲ徵收スルコト

四 外國人居住區域ハ關東總督ニ於テ之ヲ  
 定ムルコト

五 外國人ノ民事事件ハ進テ普通裁判所  
 ノ設立ニ至ル迄現行ノ軍事裁判ニ於テ

MT. 3.1.1.39

144

MT. 3.1.1.39

143

審理裁判スルコト

六、外國人ノ不動産所有權ニ付テハ追テ何分  
ノ義ヲ定ムコトトシ當分ノ間一年又ハ二年ヲ  
限リ國庫總督ニ於テ債借ヲ許スコト

明治三十九年四月二日

外務大臣侯爵西園寺公



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

外務省

MT. 3.1.139

145

30

陸 集 要 無 心 迄 談 示

東ル九月一日より大連ヲ開放スルコトナリタ  
ルヲ付テハ外國人ノ居住及土地所有權ニ  
關スル件左ノ如ク決定シ置カンコトヲ希望  
ス

一、外國人(支那人ヲ除ク)ハ當分ノ内大連  
及旅順ノ市街地ニ限り居住ヲ許スコト  
二、外國人(支那人ヲ除キ)ハ當分ノ内大連  
及旅順ノ市街地内ニ限り不動産ヲ借  
受ケ又ハ所有スルコトヲ許スコト

外務省

三、露國人ノ對シテハ四平街總署廢止ノ  
交渉纏マル迄ハ右二項ヲ適用セサルコト

MT. 3.1.1.39

147

MT. 3.1.1.39

146

3

3-0029

0411



奉  
還  
書

明治九年四月四日

別紙

明治九年四月四日 日起算

明治九年四月四日 達濟

主任

再

新中村候所

急 吉内隆光

示國子

瑞彦

大進可江守

外務省

右に記す付、官の事、  
後、  
也

御  
弟  
守  
彦  
ノ

MT. 3.1.1.39 148-1

MT. 3.1.1.39 148

3-0029

0412

角田

明治廿九年四月四日 日發遣

明治廿九年四月四日

3

野

主任

古田隆光

坂本善太郎

西園寺

清野元一

外務省

3/16/88

日清通商手続  
域内旅行

在在品及在在諸國政府之同意  
三月辛酉日付指書送付四國各  
又奉天皇之策東亞之和平  
在在政府之同意  
送付回書  
予有之知在在政府  
現在之和平

MT. 3.1.1.39

149

MT. 3.1.1.39

148-2

3-0029

0413

卜正其名各不致討、討し請ふ  
 通譯を授け給ふ又日口より外高  
 人、奉天に在る者、大在留に居住之  
 下、子に日語を授け、内地に派  
 行せしめ、款之者、討し、軍事上  
 能利之を、非能か、理由なき限  
 其派行、子に可なり、記し  
 外務省

MT. 3.1.1.39

151

MT. 3.1.1.39

150

3-0029

0414

此の事は以前より各不詳に言明  
し回文りつておしおし昭々也

外務省

MT. 3.1.1.39 152

3-0029

0415

AMERICAN LEGATION,  
TOKIO.

Memorandum.

The following is the sense of telegraphic instructions from the Secretary of State which were received at the American Legation on the evening of Saturday, March 31:

'To whatever extent obstruction arising from military exigencies might have explained a temporary restriction of the visiting of Manchuria by aliens, such a cause fails to justify the situation which is rapidly developing and bringing about the absorption of a great part of the commercial and mining opportunities of Manchuria by the Japanese, who themselves are freely admitted.

'Not only are such business opportunities at present absolutely closed to aliens, but the establishment and recovery of rights which American citizens and others acquired previously to the late war are so impeded as to cause the interested parties loss and injury.

'The American Government is informed that in some quarters, for example at Niuchwang, land registration has been decreed by the military authorities, with a view to constraining China subsequently to validate valuable transfers effected thereunder.

'China will find herself, at the end of Japanese occupation, the merely nominal sovereign of a territory the material advantages of which have been appropriated by the temporary occupants, if there is further continuance of the conditions now existing.'

April 2, 1906.

*William Brewster*  
Charge d'Affaires of the  
United States of America.

MT. 3.1.1.39

153

33

空  
人

電

山

電

空

電信

在清

内田公使

西園寺大臣

第...  
第...

外務省

奉天安東縣及大東溝、追加日清  
通商條約及未清新通商條約、規  
定に依り該條約批准交換後直ぐ  
之ヲ開放スルコトナリ居り米國政府  
ノ如キ、既に奉天及安東縣ニ駐立スル  
キ領事ヲ任命シ其赴任ノ許可ヲ  
帝ニ呈政府ニ求メ英米政府ヨリモ亦  
屢々同旨汽船ノ安東縣及大東溝ニ  
出入スルヲ許サントシ帝ニ政府ニ請  
求シ居リ然レモ今日迄我軍兵十

電送第	771	號	時	分
明治	9	年	4	月

MT. 3.1.1.39 155

MT. 3.1.1.39 154

3-0029

04:17

分進持セ入軍事上未夕是等ノ要求  
 ヲ容ル能ハル事情アリシヲ以テ帝國  
 政府ニ於テソ不本意ナカラシテ此等ノ  
 要求ヲ拒絶シ以テ今日ニ至リ然レニ  
 我撤兵モ進ミ進持シ遠カラス左ニ  
 地ノ開放ニ對シ異議ヲ唱フルハ必要ナ  
 キニ至ルニ依リ帝國政府ハ東レ五  
 月一日ヨリ外西人及外島船舶ノ安  
 東縣大東溝ニ出入スルヲ並ニ同日ヨ  
 リ外西領事官ノ安東縣ニ赴任スル  
 外務省  
 及六月一日ヨリ奉天ニ赴任スルヲ  
 辭スルシ共ニ起リ關係各國ニ通牒  
 シ帝國政府モ亦奉天ニ總領事ヲ  
 置キ安東縣ニ領事ヲ置キ後者ヲ  
 シテ大東溝ヲ管轄セシムルニトナシ通  
 告ノ時機ニ於テ右領事官ヲ任命  
 派遣スル旨ナリ是旨ハ右ノ起リ決セ  
 政府ニ申入レ同政府ニ於テ此際速  
 カニ其條約上ノ義務ヲ履行シ五月  
 一日ヨリ安東縣大東溝ヲ開放シ且六

MT. 3.1.1.39

157

MT. 3.1.1.39

156

3-0029

0418

月一日より奉天より一尺投るる手續ヲ執ル  
 様は取計を成リタシ尚安東縣大  
 東溝に於て清國稅弁ヲ設置スルニ  
 ト付テハ帝皇政府の當分、間接ヨ  
 リ進テ之ヲ促カスモトシ、進テ清國政府  
 ヲ交渉アルヲ待テ可成外部人ヲ  
 同稅弁員ニ採用セシムルヲ條件トシ  
 之ヲ應諾ス様リ、付右様清國に相  
 成リタシ

外務省

MT. 3.1.1.39 158





至急

陸軍省 満密發第一二二九號

明治三十九年四月五日

陸軍大臣 寺内正毅

外務大臣 青木周子 西園寺公望 收



34

甲斐 旅券 1件

二月廿日接密子から一日二ツのハシ海へ出帆  
 今午天安東船出帆ト申候有ノ事係ニ存スル  
 又四号ノ中ハハシ海へ出帆ニ存スル事ハ  
 白田君ハハシ海へ出帆ニ存スル事ハ  
 一、先立月ハハシ海へ出帆ニ存スル事ハ  
 二、先立月ハハシ海へ出帆ニ存スル事ハ

三、先立月ハハシ海へ出帆ニ存スル事ハ  
 四、先立月ハハシ海へ出帆ニ存スル事ハ

MT. 3.1.1.39

160

MT. 3.1.1.39

159

3-0029

0420

修  
支那

牛

信

電送第七八號  
明治三十四年四月六日  
午後六時  
發

東京

省

伊藤俊五

人

内閣府  
支那

支那  
支那

支那  
支那

外務省

MT. 3.1.1.39 162

MT. 3.1.1.39 161

3-0029

0421

至急

明治三十九年四月六日

陸軍大臣 寺内正毅



陸軍省 満密發第一二五號

明治三十九年四月六日

陸軍大臣 寺内正毅



受第四七七四號

朝鮮大臣 曹汝霖 閣下

高東が大東津の末に五月一より奉りたる  
 二回分の日付は、再して去るは、  
 領土区域の存否、亦他の人、我々  
 者、再して日付に、十月三日、領土区域  
 領土区域の存否、亦他の人、我々  
 領土区域の存否、亦他の人、我々  
 領土区域の存否、亦他の人、我々  
 領土区域の存否、亦他の人、我々

日軍進軍中 韓半島の推定

35

取調 會計 人事 通商 政務

大臣

No. 一〇二〇  
(時三三)

西園寺外務大臣

阿部臨時代理大臣

北京發  
本省着  
廿九年四月七日發  
九、二五、

第七七号

貴電第〇四号ニ関シ内田公使不在ナ  
ルニ事件極迫、付不而敢本官本日那  
桐ニ面會シ御實訓ノ趣旨ヲ述ヘ  
ル、同人ハ過般英國公使ヨリ奉天ノ  
開放期又末國公使ヨリ奉天安東縣  
等ノ開放期ヲ外務部ニ問合セ表リタ  
ルニ外務部ハ之、明答ヲ與フンヲ得

終

MT. 3.1.1.39 165

人用却マレ、今ヤ日本政府ヨリ如斯中  
止、接シ大ニ、満足ノ感ハル者ヲ奉  
早速慶王、面會シ、此事ヲ告ケ必要  
ノ手續ヲナスヘシト語リタレ、ヨリ本  
官ハ可成速、決是ノ上之ヲ通知アリク  
シト請ボシ尚那桐ハ我申込ツ歓迎シ  
タルコトハ早速之ヲ帝國政府、通達ス  
ベト旨申添置ケリ

MT. 3.1.1.39 166

36

電送第 804 號

在英  
陸奥代理

西園寺大臣

明治 39 年 4 月 8 日 10 時 00 分 發

暗元九號

外務省

此處果軍極兵も大に進捗シタルに付  
 豫て主張之所、關戸間、板橋、合、均  
 等ノ主義ヲ實行シ五月一日ヨリ外  
 吾人及知吾船舶ノ安在縣大東溝ニ  
 出入ルルハ、並ニ外吾領事官ノ安在縣  
 赴任ルルヲ許シ六月一日ヨリ外吾領  
 事官ノ奉天ニ赴任ルルハ、並ニ軍事  
 上特ニ美支アル場合ヲ除ク外一般外  
 吾人ノ内地ニ旅行ルルヲ許シ且ツ可  
 成近キ將來ニ於テ大連ヲ各國ノ通

MT. 3.1.1.39

168

MT. 3.1.1.39

167

高ノ岡牧ル一ノ決ニタリ志モ満海ノ内地  
ノ現状ニ鑑ミルコト内地旅行若シ對シ  
相考ハ保ヲ渡ルルノ且ツ宿舎其他ノ便  
宜ヲ供スルハ一歩海ノ不可能ノ屬シ又對  
一旅行若シテ馬賊其他ノ不良ノ徒ノ  
為メ危害ヲ加ヘラレバモ常ニ政府  
ニ於テ其責ヲ負ルルヲ得ルル者存  
行者ノ豫メ右ノ趣ヲ承知スルヲ要ス  
右在歐各國ノ使(露若シテ除キ)及在米  
多使ノ轉電セラルル且本大員ノ訓令

外務省

トシテ若シ使ニ於テ又安ト認ムルニ於テハ  
前記ノ趣ヲ任國政府ニ通知シ又之  
ヲ新聞紙上ニ公表シ其支テヨリ中  
添工ニシ在在邦英米代表者ハハ  
既ニ通知シ置ケリ

MT. 3.1.1.39

170

MT. 3.1.1.39

169



of all classes are changed, but no  
duties are levied on Japanese goods  
either from Japan or other countries.  
Today I have received a telegram  
from Sir Edward Grey saying  
out that this information from  
the Consul at Ceylon is difficult  
to reconcile with the accounts  
given to me on the 22<sup>nd</sup> March  
by Manguni Saionji.

MT. 3.1.1.39

171

0429

3-0029

the Aug 6. American Tobacco Co  
has not been allowed to proceed  
to Tokyo & for return for  
business while the spirit of the  
Tobacco monopoly Bureau were  
permitted to do so, and I was  
instructed in view of Marquis  
Paraguay's assurances to obtain  
permission for these agents to  
proceed to Tokyo  
On the 6<sup>th</sup> of April the British  
Consul at Tokyo telegraphed to  
the British Foreign Office that  
Mr. Takagi had import duties  
on wines & articles of China  
including wine, whereas Japanese  
articles imported from Japan  
were duty free. At Tokyo  
import duties on foreign goods

MP. 5.1.1.39

172



Pohio.  
April 8<sup>th</sup> 1906

On the 22<sup>nd</sup> March 1906 I had  
an interview with Henrique  
Santiago on several occasions His  
policy seemed to be that the  
Japanese Government intended  
to uphold and carry out the  
principles of free trade and  
equal commercial opportunity  
for all in Asia & Manchuria  
The graph has two curves to  
his maps etc. I presume that  
when it was received with  
great satisfaction. On the 5<sup>th</sup>  
April, Sir Edward Grey telegraphed  
to me that the Representative  
of

MT. 5.1.1.59

173

在本邦 莫不大使ヨリ居出ス 貴君譯文  
東京 今九百〇六年四月八日付

西園寺侯閣下ハ本年三月廿二日日本使ト  
會見ノ節 本使、確保スル日本政府  
ハ韓國公商河、若ク各國國民ニ對シ  
ハ韓國及南洋羣島  
械會均等主義ヲ維持スルヲ實行  
ス(キヲ以テセラルリ)本使ハ若ク確保ヲ柔  
國政府ハ電報シタルニ政府ハ大ニ協定  
ヲ以テ之ヲ逆ハシリ

外務省

英国外相ハ四月五日、電信ヲ以テ「英米  
煙草會社」ハ代表者ニ高用ヲ以テ大  
津又旅順ニ赴クコトヲ許サレサリシモ  
日本政府煙草專賣局ハ代表者ニ之ヲ  
許サレタル趣ヲ本使ニ傳(且ツ西園寺  
侯、前述確保、譯文會社代表  
者ノ為メニ大連ニ赴クノ許可ヲ得ル  
標致ニキ旨本使ハ訓令セリ  
在芝罘英國領事ハ四月六日ヲ以テ尤、  
如ク英又外務省(電報セリ)

115  
S.G.

大東備に於ては情國に岸貿易品  
 輸入税ヲ課スルモ日本ヨリ輸入  
 日本高島に無税ヲ通過スリ大連  
 三々各種ノ外品高島に輸入税ヲ  
 課スルモ日本高島ハ日本ヨリ来ルモ  
 他ノ諸品ヨリ来ルモ皆無税ナリ  
 左芝罘領事ヨリノ右報道ハ西園寺  
 佳がき三カ月ニ日本使に其旨多ク確保ト  
 相立スルト能ハサルヲ指摘セル英外  
 相ノ電報一本日本使に許到達セリ

外務省

大臣  
次官  
政務  
通商  
人事  
會計  
取調

No. 044  
晴

東京 三十九年四月十日 后 四五  
東京着

西園寺大臣

阿部臨時代理公使

第八〇號

陸電 第七七号之内容に當り、得たる情報に依り、  
ハ尚且政府ハ本件に付袁世凱及趙爾巽に電  
報して相談に及ぶべし



MT. 3.1.1.39

174

3-0029

0431

明治 年

月 月

日 日  
起 起  
草 草

電送第 829 號 80  
39 4 10 5 49

止

主任



奥山代地 西園寺

中ハ年

帝上御計に書月一日より御子船組ノ  
官生自社乃大東階ニ出入スルニ御子

外務省

ア、ナラ居に知日前ニ右所地ニ赴  
カシエロク望い御子船組アリ、其  
花ハ航路目的ヲ明主ニ特仔  
御出遣候ハシタシ、存子取計ニ右ナラ  
ナラ限リ、又ニテ社何ニハ、針ナリ  
右ト在、天江船組ナリ、特電ナリ

MT. 3.1.1.39

176

MT. 3.1.1.39

175

3-0029

0432

文書課長

原

明治廿九年四月十日

別紙

明治廿九年四月十日 日發遣

明治廿九年四月十日

主任

39/10/10

機密送第6/1 號

古山陸丸

梅彦

西園寺

外務省

外務省

十四日 陽曆午後  
地域内 出入許  
可 在出

啓

英米煙草多量輸入代表者大会進行  
付並 大東清 (任不送) 勸工院財源  
付 二 旨 別 帛 質 出 済 久 道 途 本  
新 業 不 表 使 了 案 涉 办 三 升 於 續 業  
令 社 代 表 者 大 会 進 行 航 一 義 二 計  
特 別 論 議 一 以 既 既 可 事 多 都 野  
為 又 在 者 五 格 八 部 機 一 氣 与 三 口

MT. 3.1.1.39

178

MT. 3.1.1.39

177



右記ノ事ニ付テハ、  
中核<sup>中核</sup>ニ付テハ、  
日昭<sup>日昭</sup>有升也

大東<sup>大東</sup>諸<sup>諸</sup>國<sup>國</sup>ニ付テハ、  
日昭<sup>日昭</sup>有升也

日昭<sup>日昭</sup>有升也  
日昭<sup>日昭</sup>有升也

外務省

日昭<sup>日昭</sup>有升也

日昭<sup>日昭</sup>有升也

日昭<sup>日昭</sup>有升也

日昭<sup>日昭</sup>有升也

日昭<sup>日昭</sup>有升也

日昭<sup>日昭</sup>有升也

日昭<sup>日昭</sup>有升也

MT. 3.1.1.39

180

MT. 3.1.1.39

179

東洋の古蹟  
 遺跡の調査  
 及びその  
 研究の  
 結果を  
 報告す  
 べし

東洋の古蹟  
 遺跡の調査  
 及びその  
 研究の  
 結果を  
 報告す  
 べし

外務省

MT. 3.1.1.39 181

3-0029

0435



40

取調 會計 人事 通商 政務

大臣 次官

No. 一〇五九

(暗二一)

第三〇号

西園寺外務大臣

日置臨時代理公使

華府 廿九年四月十日  
本省着 上日後一二五

3

秘  
總務海峽軍山

在英陸奥代理大使家貴電第五九号ノ趣旨國務次官ニ語リタル、東京公使館ヨリ同様電報アリタルニ不満足致大統領長官 共ニ頗ル失望シ居レリト云々夫レヨリアンラフとシアンノ談話ニ移リタルが先方ノ語リタル處ニ依リ無意ヲ推度シテ要領ヲ露骨ニ託セハ

MT. 3.1.1.39 183

取調 會計 人事 通商 政務

大臣 次官

No. 〇五三

(暗二一)

第一二五号

外務大臣

西臨時代理公使

貴電第五九号滿洲開放ニ関スル件ハ  
頃國及瑞西國兩政府ニ通知シ置ケリ

維也納泰 廿九年四月十日  
本者着 上日前二三

3

修  
ル

MT. 3.1.1.39 182

排他的露國ヲ滿洲ヨリ驅逐シ大  
名ヲ得タル日本カ直ニ代リテ其主義ヲ  
行フニ至リタルハ遺憾ナリ戦争ノ終  
止シタル今日軍事的占領ノ状態存スル  
ノ故ヲ以テ他國ノ領事商人ヲ滿洲  
入レサシ理田更ニ分テ滿洲ハ奉天  
大連ノ別ナク直ニ開放シテ正々堂堂ノ  
態度ヲ示スコト日本ノ利益ナリ世間或  
ハ日本ノ意志ヲ他國人ヲ妨礙シ本國  
商人ヲ保護スルニアリトナスモノアムモ  
斯ルホサク且賤シキ業ハマカカ日本ノ執

MT. 3.1.1.39

184

ラサシ處ナシ云々抑、門戸開放主  
義、同シテハ吾國ハ自ら本家ヲ以テ任  
シ日露開戦前既、安東奉天領事  
ヲ任命シテ露國ニ及抗的態度ヲ示  
シタル行跡等マアムコト故大統領ガ  
焦躁シク思ハ居ラシ、人察スルニ余リア  
リ

MT. 3.1.1.39

185

41

電送第 845 號 56032  
明治 39 年 4 月 1 日 曜 5 曜 8 曜

手

主米

ソノ里路可也

大人

六三七

光電三六号ニ関シ

本方ハ内政ニ於テ事態トシテ也

素ク云ハカク事政府ノ所解セラレ

ルヤハ祝ルシテ遺憾トス蓋シ平和支

外務省

後ノ者付テ於テ内政ニ在リテ新兵

數ハ各處數十方ニ達シ軍器糧

食料等モ之ニ於テ断ル多クニシテ

之ヲ撤退スルニ要スル業ニ非ズ既

ニ日露西ノ日合友ノ者ニ物乞セシメ

ハ撤兵吹雪モ三期ニ至ルヲ於テ

于ハ本年某日(註)ニ因ル中平如年六月

止

止

防務局

MT. 3.1.1.39

187

MT. 3.1.1.39

186



一、官、河平に之を覺出、於之を而禁、  
 於其區域内、各關何者、入つたるに、  
 いかば、たに、其地方に、住民、降、  
 外、官、隊、に、區域、外、地方、軍隊、に、  
 域、に、赴、つ、る、に、兩、軍、を、互、に、互、に、  
 中、に、入、る、に、ア、ラ、カ、シ、  
 中、に、居、り、又、為、自、ら、他、に、域、に、於、  
 送、る、財、産、を、隊、外、に、於、て、  
 他、に、他、に、他、に、域、内、に、前、往、ス、  
 此、事、り、  
 人、の、前、往、ス、  
 事、情、に、  
 人、の、由、内、地、に、入、る、に、  
 外、務、省

MT. 3.1.1.39

191

MT. 3.1.1.39

190

3-0029

0440

已ムクハカノ侍ニシテ唯ヨカキ人  
物多ク申ヨリシテ  
平和克復後五日地ノ静リ又  
後事等ニモ之ノアラセガ右ノ令我  
軍隊ノ奉命ノ服シテ行ハス所ナ  
而外ニ起ルモノナラズ軍械係留ノ上  
於テ他者人ト同視スルハカニ多  
シ

MT. 3.1.1.39 192

外務省

手書 高麗ノ事一  
星ニ止ル  
義ヲ背反ス  
城ノ内  
門ノ内  
官收捕舎均等ノ  
直下ニ  
セバ手  
上  
大  
不  
便  
ア  
ル  
ニ  
拘  
ハ  
ス

MT. 3.1.1.39 193

3-0029



最近ノ捕合ヨリハ内閣官報ニ其ノ  
セシト決ニモシテ其ノ事ニ付其ノ中  
合ノ上米子高候者ナリト其ノ事  
ヲ了解セシムル所ナラシメシ  
本度ノ考ル所トシテ在英大使館  
轉達セラルル

外務省

42  
191

電報寫  
 関東總督府参謀長  
 次官宛  
 関東州内ハ民政署ニテ沿岸貿易ニ属スル荷物ニ課税シアルモ大東津及其ノ他ノ地方ニ於テハ我官憲輸入品ニ課税シタルナシ

陸軍省

42

陸軍省

陸軍省第一三九號

皇紀二千九百零九年十月十六日

陸軍大臣古田正毅

陸軍省印

大東津地方に於ける輸入品に課税の義ハ大東津一輸入品ニ課税の政后ラスルハ之ハ同義ナシト計ル本府に於テハ之ニ異存アリトモ追テ為成電報等ハ悉考案付ル也

大東津地方に於ける輸入品に課税の義ハ大東津一輸入品ニ課税の政后ラスルハ之ハ同義ナシト計ル本府に於テハ之ニ異存アリトモ追テ為成電報等ハ悉考案付ル也

陸軍省

3-0029

0443



大書

明治廿九年四月十一日接受

50

43  
望  
次

明治廿九年四月十一日達清

在奉部

外務大臣

送第三

二號英王大使

送第二

三號國代理大使

急

大急

滿洲國政府

外務省

以書翰致呈上候陳者滿洲國政府、  
 件：閣下之過渡期來貴國政府、訓  
 令：基キ以頭又、昔面、以于度、法  
 開陳、次第有之、其知帝國政府が  
 滿洲、於之門戶開放機會均等  
 主義ヲ實行保持セシトシ、熱望  
 地方ハ勿論、一我、有之、其、共、誤  
 地方、是、道、撤兵、為、非、中、地、赴  
 難、極、大、居、其、身、外國人、由、地、赴  
 外國船舶、離地、海港、出

我軍予日飲、居、大、地、城、及

○  
一方、於、其、  
機、係、落、ノ、文、  
其、ア、リ、見、  
ナ、ラ、ズ

MT. 3.1.1.39

201

MT. 3.1.1.39

200

3-0029

0444

奉天ハ今  
當掛者、高橋  
ノ有リ混雑少  
ナカズ分付有  
一ヨリ如ク復  
リ、赴任シ行  
ニ當リ、行

入る事々等、昇シ多ク、制限少カ  
ルノ已ムナキヲ認メ不キ者ナカレ今日  
ト必事録ノ一カニナル時制限ノ外  
官行止ニ来リ、然レ皇帝國軍  
隊ノ極退モ迄、進歩ノ用地方  
混雜ト漸ク鏖戦シ終ニ皇帝國  
政府ニ其豫ヲ主張セル所ノ主義ニ  
依リ成ル一ク速カニ滿洲ノ各國、  
通商ノ開投セントシテ、朕ニ未月一日ヲ

外務省

東溝ニ、在在ナリ外國船舶ノ禁  
止、出入スル一外國領事官  
ノ兼署安東縣ニ赴任スル、並ニ外  
國ノ清國領事官、滿洲内地ニ  
赴クニトシテ、該領事官、領事官  
豫メ、法ノ知、現狀ニ鑑ミ、内  
内地ニ於ケル、現狀ニ鑑ミ、内  
内地ニ於ケル、現狀ニ鑑ミ、内  
内地ニ於ケル、現狀ニ鑑ミ、内

MT. 3.1.1.39

203

上特  
其方  
クシ  
除キ

MT. 3.1.1.39

202

又是等旅行若シラ第一島賊其他  
不良、徒、為ノ危害ヲ加ヘルルカ如キ  
下アリスルモ、下ニ於テ帝國政府ニ於  
テ其責、任ニ重クシテ、下ニ於テ  
法承知、置相、成度、何、將、又、大連、  
義、帝國、政府、ニ、於、テ、可、成、連、カ、之  
ノ、各、國、ノ、通、商、ノ、開、投、ニ、且、之、外、出  
領、事、官、ノ、駐、在、ヲ、認、許、ス、ル、方、針、  
有、之、目、下、右、ノ、開、投、ニ、準、備、中、有、  
之、所、官、世、内、更、ニ、何、カ、ノ、我、待、通、知

外務省

及、コ、レ、ノ、外、下ニ、於、テ、下ニ、  
器、重、ニ、開、投、ニ、向、テ、致、意、ヲ、表、ス、  
併、致、意、ス、也、

維、新、國、運、派、所、置、己、域、ヲ、  
守、ル、軍、隊、派、出、シ、テ、下ニ、  
各、國、ノ、通、商、ノ、開、投、ニ、向、テ、  
諸、年、十、月、三、十、日、四、十、日、  
日、軍、部、司、令、書、第、百、九、十、一、号、  
相、軍、部、司、令、書、第、百、九、十、一、号、  
ニ、對、シ、テ、下ニ、於、テ、

追、出、ス、ル、  
シ、カ、ク、入、ル、  
九、十、日、  
日、軍、部、司、令、書、第、百、九、十、一、号、  
ニ、對、シ、テ、

ニ、對、シ、テ、下ニ、於、テ、  
日、軍、部、司、令、書、第、百、九、十、一、号、  
ニ、對、シ、テ、

MT. 3.1.1.39

205

MT. 3.1.1.39

204

3-0029

0446

*upon*  
~~in regard to~~ the entrance of foreigners <sup>into</sup> to the interior and  
~~to~~ the calling of foreign vessels at the sea-ports of the  
 province ~~above-mentioned~~, have heretofore <sup>with much reluctance established</sup> imposed such res-  
<sup>considered</sup>  
~~trictions~~ as <sup>were deemed</sup> absolutely requisite under the circumstances,  
 though ~~with much reluctance on their part.~~

I now have, however, <sup>the</sup> agreeable duty to <sup>acquaint</sup> inform you that the  
 withdrawal of the Imperial troops having <sup>steadily progressed</sup> ~~now fairly~~ advanced,  
 the Imperial Government, animated by the desire to open  
 Manchuria to ~~the~~ foreign trade in accordance with the prin-  
<sup>to</sup> <sup>are attached</sup> ciple which they <sup>have</sup> invariably adhered <sup>to</sup>, have resolved to

permit, from the 1st of May, foreigners and foreign vessels  
 to enter An-tung and Ta-tung-kou, and foreign Consuls to <sup>proceed</sup> ~~reside~~  
~~at~~ the former place. As regards Fentieng (Mukden), <sup>owing to</sup> where ~~no~~

<sup>the</sup> <sup>still</sup> <sup>the</sup> ~~small~~ confusion <sup>is</sup> still prevails on account of ~~its~~ <sup>still</sup> ~~re-~~  
<sup>the place being</sup> <sup>centre</sup> <sup>process of evacuation</sup> maining as an important point in the way of withdrawing the

<sup>admitted</sup> <sup>there is</sup> ~~troops~~, foreign Consuls will be ~~recognized~~ there from the 1st  
~~day~~ of June, while from the same date <sup>foreigners</sup> the merchants of foreign

<sup>affected</sup> <sup>by Japanese</sup> <sup>military</sup> <sup>occupa-</sup> <sup>tion,</sup> countries will also be allowed to proceed to the interior of  
<sup>neither as well as</sup> <sup>other portions</sup> Manchuria, except in the cases <sup>in which objections may exist</sup> especially objectionable from

MT. 3.1.1.39

207

<sup>a</sup>  
~~the~~ military standpoint.

Having regard, nevertheless, to the <sup>present</sup> condition of things  
~~at present prevailing~~ in the interior of Manchuria, I trust  
 you will readily observe that it <sup>would be</sup> ~~is~~ practically impossible  
 to give adequate protection to ~~the~~ travellers in the <sup>interior</sup> ~~internal~~  
~~parts~~, or to afford <sup>the</sup> such facilities as may be required for  
 their <sup>accommodation</sup> ~~lodgings, etc.~~, and you will also understand that the  
 Imperial Government <sup>would</sup> ~~shall~~ in no wise be held responsible, even  
 if such travellers <sup>should suffer in any way</sup> ~~happen to be placed under any danger~~ at  
 the hands of the Chunchuses or other <sup>lawless persons</sup> ~~bandits~~.

<sup>by</sup>  
 I ~~have~~ to add that it is the intention of the Imperial  
 Government to open Tairen (Dalny) to ~~the~~ foreign commerce  
 as soon as possible and permit foreign Consuls to reside  
 there, and preparations looking to that arrangement being <sup>to make in due course</sup>  
<sup>I shall have the pleasure on this matter</sup> under consideration at present, further communication will  
<sup>on the subject,</sup> ~~shortly be made in this connection.~~

Accept, Sir, etc., etc.,

(Signed) Marquis Saionji,

Minister for Foreign Affairs.

MT. 3.1.1.39

206

③ 74

Department of Foreign Affairs,  
Tokio, April 1906.

Sir:-

With reference to the subject of <sup>opening of</sup> operating Manchuria,  
~~you have on several occasions~~  
You have ~~some time since~~ repeatedly made representations ver-  
bally as well as in writing, <sup>with regard to the opening of Manchuria.</sup> In pursuance of the instructions

~~from~~ <sup>of</sup> the United States Government, Δ

~~It need scarcely assure you~~ <sup>hardly be stated</sup> that the Imperial Government

have always ~~been~~ <sup>ed an</sup> entertaining earnest desire to uphold and  
carry out the principle of the open door and equal opportunity <sup>in Manchuria</sup>;  
~~In view however, of the necessity for~~  
~~but in view not only of the necessity still existing for the~~  
~~safe guarding military secrets and cons~~  
~~protection of the military secrets on one hand, but also of~~  
~~considering also the confusion incidents~~  
the state of unusual confusion caused in the said province by  
the withdrawal of a large body of troops,  
the pending withdrawal of the troops, the Imperial Government,  
the ~~Imperial Govt~~ <sup>Imperial Govt</sup> have heretofore been reluctant  
deeming it indispensable to establish more or less restrictions  
by compelled to impose certain restric-  
tions upon the free entrance of foreign  
vessels and foreign vessels into the regions <sup>and sea ports affected</sup>  
by their military  
occupation.

Huntington Wilson, Esqre.,

Chargé d'Affaires of the U. S.A.

MT. 3.1.1.39 209

While the Imperial Government will, so far as possible, protect foreigners lawfully visiting the localities above mentioned, I trust you will understand that, in view of the unsettled state of things in Manchuria, the Imperial Government are not at present time able to assume responsibility for the safety of the persons or property of travelers in those localities.

MT. 3.1.1.39 208

Government would in no wise be held responsible, even if such travellers should suffer in any way at the hands of the Chunchuses or other lawless persons.

*As to Baron (Delany)*  
I beg to add that it is the intention of the Imperial Government to open ~~Paitan (Delany)~~ <sup>the port</sup> to foreign commerce as soon as possible and to permit foreign Consuls to reside there, ~~and~~ <sup>as</sup> preparations looking to that ~~arrange-~~ <sup>ment</sup> being under consideration ~~at present~~, I shall have the pleasure to make in due course, further communication on the subject.

Accept, Sir, etc., etc.,

(Signed) Marquis Saionji,  
Minister for Foreign Affairs.

I beg to add for your information

that the persons desiring to proceed from the line of the military occupation of Japan to that of Russia on vice versa, are required regardless of the arrangements mentioned ~~in the above communication~~ <sup>above</sup> to comply with the provisions of the Memorandum signed at Sj-ying-kai on the 30th of October last, between the representatives of the ~~Commanders in Chief of the Japanese and Russian Armies in Manchuria~~ <sup>Commanders in Chief of the Japanese</sup> and Russian Armies in Manchuria

MT. 3.1.1.39 210

0449

第  
號

第  
號

Department of Foreign Affairs,  
Tokyo, April 11, 1906.

Sir:-

In pursuance of instructions from the United States Government, you have, on several occasions, made representations verbal as well as in writing with regard to the opening of Manchuria.

It need hardly be stated that the Imperial Government have always entertained an earnest desire to uphold and carry out the principle of the open door and equal opportunity in Manchuria. *But in view* ~~In view, however,~~ of the necessity for safe-guarding military secrets and considering also the confusion incident to the withdrawal of a large body of troops, the Imperial Government have heretofore been reluctantly compelled *among other things* to impose certain restrictions upon the free entrance of foreigners and foreign vessels into the regions and sea-ports affected

Huntington Wilson, Esqre.,  
Charge d'Affaires of the U. S. A.

MT. 3.1.1.39

212

by their military occupation.

I now have, however, the agreeable duty to acquaint you that the withdrawal of the Imperial troops having steadily progressed, the Imperial Government, animated by the desire to open Manchuria to foreign trade in accordance with the principle to which they are attached, have resolved to permit, from the 1st of May, foreigners and foreign vessels to enter An-tung and Ta-tung-kou, and foreign Consuls to proceed to the former place. As regards Fentieng (Mukden), owing to the confusion still prevailing there on account of the place being an important centre in the process of evacuation, Foreign Consuls will be admitted thereto from the 1st of June, *and* ~~while~~ from the same date foreigners will also be allowed to proceed thither as well as to the other portions of Manchuria affected by Japanese military occupation, except in ~~the~~ cases in which objections may exist from a military standpoint.

*[Handwritten signature]*

Having regard, nevertheless, to the present condition of things in the interior of Manchuria, I trust you will readily observe that it would be practically impossible to give adequate protection *and facilities* to travellers in the interior, ~~or to afford the facilities for their accommodation,~~ and you will also understand that the Imperial

MT. 3.1.1.39

211

44

次官 大臣 政務 通商 人事 會計 取調

No. 一〇九二

第三七號

西園寺大臣 日置代理公使

華發 東京著 三十九年四月十三日後六三〇

四月十二日貴電第三七號ノ趣旨委細國務長官ニ説明シタルニ同官ハ帝國政府ノ好意ヲ謝シタルヲ別ニ何等ノ意見ヲ述ヘサルニ付誘導シタル所當政府ハ素ヨリ撤兵ノ願ナラサルヲ承知セサルニアラス又政府ハ日本政府ノ意志利益壟断ニアリトハ信セス但我國人カ囂々スル以所ハ一ハ彼等ノ性質カ何等抑制ニ甘マンズル能ハサルヘキモ一ハ日本下僚官吏カ充分政府ノ本意ヲ解セス偏頗

秘 陸海軍省何山

MT. 3.1.1.39 213

ノ行爲アルニモ依ルナラント述ヘラレタルニ付斯ル報告モアラハ承知シタシト云ヒシニ右ハ突止メタル事實ニモアラサレハ提出スル價值ナシト云ハレタリ蓋シ當政府ハ陸奥宛貴電第五九號ニ満足セス更ニ交渉繼續スルノ意ナルヤハ察セラレ貴電第三七號ノ説明ハ果シテ其意志ヲ変更スル効アリヤ分ラス國務長官ハ大統領ニ協議ノ上更ニ何分ノ談話アルヘシト信ス

MT. 3.1.1.39 214



板書

大書課長

明治廿九年四月十三日

明治廿九年四月十三日

帝正政府五月一日より外本人

外本人形、安東縣及大東津

ヲ入ルニ、外本人領事友、母

東縣ニ赴任スルニ、許、且、六

月一日ヨリ、外本人領事友、未

外務省

赴任スルニ、及外本人、商用其他

ノ、爲滿洲内地ニ赴クコトヲ許ス

決定、独リ露本人ニ

本年四月、對シテハ撤兵完了後ニ至ル迄特

右ノ自由ヲ附與セサルコト、決定

MT. 3.1.1.39

216

MT. 3.1.1.39

215

3-0029

0452

普通ノ坊名ニ於テ

セラレタリ 抑<sup>レ</sup>彼我占領地域内ニ無

関係者ノ入り来ルノ不便ナルハ論ヲ

俟タサル所ニシテ 抄<sup>後ノ</sup>四平街ニ於テ

日露兩軍司令官代表者間ニ

調印<sup>之ニ過キ各同僚多ク本姓ニ對シテ</sup>ニタル見書ニ於テモ 地方<sup>物販ノ如ク且露</sup>在

外務省

民ヲ除<sup>テ</sup>外兩軍友黨ヨリ共用

許可ヲ得タルモノニアラザレハ軍隊

配置區域内ニ入ルコトヲ禁ズル旨ヲ

規定シ以テ他人ノ占領地域内ニ入

ルヲ制限スルノ必要ヲ認ム<sup>ハ</sup> 露

MT. 3.1.1.39

218

MT. 3.1.1.39

217

3-0029

0453

Handwritten notes at the top of the page, including a large 'H' shape and various vertical characters.

現、何レノ方置アリト

玉ハ ~~...~~ 帝玉臣民、同軍占領地

止セリ蓋ニ右ノ處玉皇ノ最初物方

域内、入ルヲ禁、~~...~~ 爲實際北

指テ露人ノ領地依ニ城内ノ入ルニトシ修討ニ其止シクニカメメ、甚

~~...~~ 帝

クト云フト修既、現實先方ニ於テ右ノ如キ處ヲ執レ以上

臣民モ亦勢シ、セサルヲ以テ我ニ於

テモ亦撤兵完ニ建特、露玉人ニ討

外務省

シ他、外玉人ニ附典スル所ノ自由ヲ典

論理上ノ文ナキニアラズ然レモ又之ヲ

ヘサルニト、ナスモ ~~...~~ 如シ

討露外吏ノ本義ヨリ立スルニ我ニ我ノ臣トシテ部ヲ部トシテ

對シテ ~~...~~ 始ト

如レハ

半歳ニ至リ兩玉ノ鄰交既ニ旧ニ復シ

タル今日ニ方リ帝玉政府ニ於テ尚露

Handwritten notes at the bottom of the page, including a vertical line and various characters.

MT. 3.1.1.39

220

MT. 3.1.1.39

219

3-0029

0454

1855

五人ヲ教人

九カノウツ

ト視シ特ニ之ニ對シテ

他外五人ノ享有スル自由ヲ附與スルヲ拒

ハカキル 強要スルヲ拒ミ我ニ對シテ

我ニ對シテ我ニ對スル如ク我ニ對シテ我ニ對スル

提議レ他五ヲシテ南支間ニ離間

日清 支 務 省

中傷ノ策ヲ弄セシムルノ機會ヲ作ル

盧ノ東ニ加フルニ安東縣大東

溝及奉天ノ開放ハ清玉カ他五トノ

条約ニ依リテ負擔スル所ノ義務ニ屬

スルヲ以テ我々五人ノ一體ヲ

内地ニ出入セシムル以上我々五人ノ一體ヲ束縛スルニ其義務負ハルベシ

MT. 3.1.1.39

222

MT. 3.1.1.39

221

<p>所ノ諸般ノ權利ヲ享有セシメサルハ露</p>	<p>玉カ情玉トノ条約ニ依リ有スル所ノ權</p>	<p>利ヲ侵害スルノ嫌アルヲ免レス孰テハ</p>	<p>帝玉政府ニ於テハ日露兩玉將來ノ</p>	<p>關係ヲ顧ミ且情玉ト他玉トノ間</p>	<p>ニ存在スル所ノ条約ノ規定ニ鑑ミ多</p>	<p>少ノ不便ヲ忍ビ露玉人ニ對シ他ノ外</p>	<p>玉人ト合一ノ權利ヲ興フルコトニ六月</p>	<p>一日ヨリ他<sup>外</sup>玉人合様<sup>東</sup>南滿州ニ入ルヲ</p>	<p>許スコトハ方<sup>外</sup>通由ト認ム若シ万一</p>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------	-------------------------	--------------------------	---	------------------------------------

外務省

MT. 3.1.1.39 224

MT. 3.1.1.39 223

3-0029

0456

六月一日ヨリ之ヲ許スニトテ不~~都~~  
便トスル

~~書~~ 特別ノ理由アルニ於テハ四平

街議定書~~中項~~依~~書~~ニ軍隊  
（依リ長官あり後ノ）

新氏也奉天極順以北ノ地ヲ撤退

此時期即チ未ル八月一日ヲ期シ

外務省

露五人ニ對シテ他外人ニ對シ

↑自由ヲ與フルコトニ要スル  
（ルフト・ス）

尤モ右期日以前ト雖モ露五ニ於

テ其北~~現~~滿洲ニ於テ帝~~臣~~民ニ對

シテ施行シツ、アル制限ヲ撤去スルニ

MT. 3.1.1.39

226

MT. 3.1.1.39

225

3-0029

0457

至リタル時ハ帝國政府ニ於テモ亦全

時ニ露西人ニ對スル制限ヲ撤去ス

~~必要~~ニ即チあるは、西人

人ニノ介入ヲ自由ニスルコトヲ可トス

外務省

MT. 3.1.1.39

227

3-0029

0458

五ノ

明治九年

四月廿六日  
起草

郵部

山田主任

十位 参事 山田

松本

岡田

本  
山田

外務省

抄公陳高進非其能中律  
書其法海不致以此為陸  
海高島と好機を得たり未  
其月一日より外は公使館の  
在り社大在層之出たて一  
倍子ノ言在氣ニ其任  
之月一日より外は公使館の

MT. 3.1.1.39

229

MT. 3.1.1.39

228

3-0029

0459



赴任スル者ニ軍事上特ニ長支ル  
 ハスラ臨ク外其人内地ニ歸リ  
 然ラバ既ニ日清戦争以来内地ノ  
 行政ニ對シテ<sup>行政</sup>決之於升  
 九王治内地ノ現状ニ鑑ミ  
 内地旅行者ニ對シテ相立ノ經費  
 ヲ一旦宿舎等々他ノ便益ヲ  
 供テリ到る迄ナキ又<sup>海軍省</sup>一國賦  
 池ノ不良ノ純ノ為ラニ宜ク加  
 一ツノ公ニ寄ル所あり且其人ニ位  
 ニ至ル者古ノ<sup>海軍省</sup>進ヲ申出ノ事  
 一存出ハ出<sup>海軍省</sup>事ナキ、カ其末あり  
 名ニ<sup>海軍省</sup>海軍省ナキ、カ其末あり  
 海軍省ノ先<sup>海軍省</sup>海軍省ナキ、カ其末あり  
 海軍省ノ先<sup>海軍省</sup>海軍省ナキ、カ其末あり

外務省

MT. 3.1.1.39

231

MT. 3.1.1.39

230

<p> <small>予江ノ浦</small>  <small>見之</small> </p>	<p> <small>見之</small> </p>	<p> <small>見之</small> </p>	<p> <small>見之</small> </p>
---	----------------------------	----------------------------	----------------------------

外務省

MT. 3.1.1.39 233

MT. 3.1.1.39 232

3-0029

0451

明治 年 月 日  
起草  
日發遣

秋 止

主任  
電送第六號  
明治三十年四月廿一日  
午三時五分發



實付

東京

青森

第三五號 仰二階 兎芝 改日法會

孫子 沙田 紀元 舞多心 活 海 可 子 侍

此 公 陸 軍 部 三 局 一 部 儀 經 理 一 日

外務省

五月一日より知事人仕多不 船 安 赤

島 右 幸 満 一 出 力 一 甚 一 亦 少 侍 一

官 左 右 一 仕 仕 一 一 侍 一 一 日 一

外 上 侍 一 一 奉 天 一 仕 仕 一 一 甚 一 一 軍 一

上 野 一 一 甚 一 一 一 隆 一 一 亦 一 一 人 一 一 地 一

派 行 一 一 一 一 一 且 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

送 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

MT. 3.1.1.39

235

MT. 3.1.1.39

234

海内各地ノ現状ニ鑑ミテ内地旅行  
 者ニ付シ明者ノ便宜ヲ生ムルヨリ  
 各地ノ便宜ヲ供スルニ又乃  
 旅行者ニシテ馬路其外他ノ  
 交通者ヲ加ヘテ之ヲ以テ  
 其責ニ供スルヲ得ルニ付  
 一多記ノ如クハ付ノ黄末  
 外務省  
 237  
 236

村ニシテ未年振興ノ定メテ  
 中上ノ置タルヲ以テ  
 中上ノ置タルヲ以テ

MT. 3.1.1.39

MT. 3.1.1.39

3-0029

0463

十二日四時  
宛書扱察  
鳳海

再耀

明治廿九年四月十七日  
同 月 十七日 起 革  
日 發 遣

明治廿九年四月十七日  
明治廿九年四月十七日

少長  
主任  
會  
主任

機密送第 67 號

西園寺

古内隆光

清宮政府

外務省

清宮政府之閣議之裁旨  
年一過立不誤在知使、電訓  
示終至公府下交海島政府  
右、其之少意見  
此即早未得此日  
勿早字序

勿早字序

MT. 3.1.1.39 239

MT. 3.1.1.39 238

3-0029

0454

支那  
 支那  
 西園寺公使

日露西園寺公使に於て西園寺公使  
 親を以て  
 外務省  
 西園寺公使

外務省  
 日露西園寺公使に於て西園寺公使  
 親を以て  
 外務省  
 西園寺公使  
 日露西園寺公使に於て西園寺公使  
 親を以て  
 外務省  
 西園寺公使

MT. 3.1.1.39

241

MT. 3.1.1.39

240

3-0029

0465

◎ 薩摩之船  
 此等船も  
 右ノ自由  
 ヲ與フル  
 能ハスルニ  
 由

地方ノ家計ニ  
 五月一日ヨリ  
 凡テ諸ノ出入  
 主至是ニ  
 日ヨリ外上  
 其地ノ為  
 後迄者ノ  
 印付が  
 行行レ  
 外務省

MT. 3.1.1.39 243

MT. 3.1.1.39 242

有定海河... 日...  
 亦終兩國... 若其亦三朝... 擢兵...  
 鐵道線路...  
 終... 時...  
 期... 務... 省...  
 日... 同... 日...  
 四手街... 規... 廣... 西...  
 印... 他... 一... 信... 底... 封... 施...  
 也... 制... 限... 擢... 之... 西... 國... 屋... 瓦...  
 相... 互... 日... 務... 省... 以... 領... 土... 域... 內...

MT. 3.1.1.39 245

MT. 3.1.1.39 244





出たハハ自由をこころにうける事ナリト

認  
出たハハ自由をこころにうける事ナリト

出たハハ自由をこころにうける事ナリト

出たハハ自由をこころにうける事ナリト

出たハハ自由をこころにうける事ナリト

出たハハ自由をこころにうける事ナリト

外務省

MT. 3.1.1.39 247

MT: 3.1.1.39 246

3-0029

0468

十二日 四時前  
送達 松本

483

814

郵

陸軍省 送達 滿洲 第一五六號

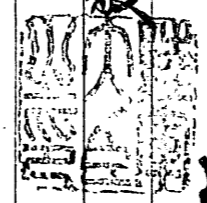
陸軍省



3

滿洲開拓ノ義ニ付本理公使ニ電列  
ノ件ニ關シ機密送第六七號一覽  
層ノ起異在無之ハ及及回答也  
以迄三十九年四月十九日

陸軍大臣古内正毅



外務大臣侯爵西園寺公望殿

陸軍

MT. 3.1.1.39 248

3-0029

0469

454

電送第九三〇號  
明治廿九年三月二十日 午後十時

ちんめい

電報

電

山田 四里 使

田岡 吉

三月七号

帝國政府は是迄滿州に於ける撤兵の未だ十分進捗セザリシ為メ外國人及外國船舶ノ同地方に出入シ並ニ外國領事官ノ同地方に赴任スルコトヲ許サリシ処最早

外務省

撤兵ニ大ニ進捗シタルに付豫テ主張セル所ノ内戸開放核會均等主義ヲ実行シ五月一日ヨリ外國人及外國船舶ノ安東縣及大東溝ニお入スルコト並ニ外國領事官ノ安東縣ニ赴任スルコトヲ許シ六月一日ヨリ外國領事官ノ奉天ニ赴任スルコト並ニ軍事上特ニ差支アル場合ヲ除ク外一般外國人ノ内地に旅行スルコトヲ許シ且ツ可成近キ將來ニ於テ大連ヲ各國ノ通商ニ開放スルコトヲ決シタリ尤モ備

MT. 3.1.1.39

250

MT. 3.1.1.39

249

3-0029

0470

四手街見書  
抽表

内地ノ現状、鑑ミルトキ、内地旅行ノ者  
 對シ相當ノ保護ヲ具シ、且ツ宿舎其他ノ  
 便宜ヲ供スルコトハ實際不可缺ト屬シ  
 又第一旅行者ニシテ馬賊其他ノ不良  
 ノ徒、為メ、危害ヲ加ヘラハ、コトアルモ帝  
 國政府、於テ其責ニ任スルコトヲ得サル  
 次第、付旅行者ノ豫メ右ノ趣ヲ原  
 香スルコトヲ要スルモ、トクナリ、尙且日露  
 兩國間ニおキ、四手街見書ノ規定  
 アリ、端汝、於ケル、此ノ規定ニ依リ、  
 無名ノ旅行ノ者、アルモ、ハテ、知限シ、而シテ  
 内地ノ現ニ他ノ一方ノ臣民、カ自ニ  
 名付、或ハ、内地ノ、不ニ、トク、禁止ニ、居レ  
 ハ、或ハ、内地ノ、人、ニ、計、シ、テ、直ニ、是、記、ノ  
 白、田、ヲ、与、ス、ル、能、ハ、止、ム、コト、得、サ、ル、所、ナ  
 リ、依、テ、是、等、ノ、公、行、ニ、来、ル、日、一、日、即  
 チ、方、三、期、ノ、概、算、及、鐵、道、線、路、各、等  
 ノ、檢、査、ヲ、終、了、ス、ル、日、ヲ、以、テ、四、手、街、見  
 書、ノ、規、定、ノ、度、上、ニ、西、上、ノ、行、カ、現、ニ  
 他、ノ、一、方、ノ、臣、民、ニ、對、シ、施、行、セ、シ

外務省

MT. 3.1.1.39

252

MT. 3.1.1.39

251

3-0029

0471

制限ありて去し而不任瓦ラヒテ別國  
 人の探ありて其西より右に已域内  
 に出たたり自由ナラシムルコトヲ望シ目  
 下右ニ開シテ諸島及び所々ニ交々中  
 ナリ孰ラ遠矣汝等國ニ出シテ諸島人  
 ニ對シテ前記如ク人ノ有テ自由ニ之  
 ヲ許スルニ能ハス義ヲ汝等國ニ交々  
 リリシ  
 右天津牛莊芝罘上海各埠  
 ニ轉電スルコトシ

外務省

MT. 3.1.1.39 253

電送第九三三號  
一九四四年四月十日  
午後一時三十分發

在野

支那の使

國守の信

第三二號

帝を以て討つは是と漢河を於てせん撤  
兵し來りて是を道折せりしより勿論  
人及勿論船艇の内地へ入らしむ  
勿論船の官の内地へ入らしむ  
し件せりし事最に撤兵も大に道折

外務省

らるる付に極言を張る所は、戸  
の及撤兵等均等、主義の實行  
にあり、百の官人等が勿論船艇  
あふれ及大に道折をせりし事  
勿論船の官、あふれ及大に道折  
をせりし事、六月の一日、勿論船  
官、あふれ及大に道折をせりし事  
と物、あふれ及大に道折をせりし事  
一般の官人、内地へ入らしむ  
トシテ、是より撤兵も大に道折

MT. 3.1.1.39

255

MT. 3.1.1.39

254

3-0029

0473

大連ヨリ各埠、通商ニ関及スル事。  
 決シテ其ノ邊境内地、現狀ニ  
 沿ヒル中ハ内地旅行者ニ對シテ  
 當ノ保護ヲ與ハル事爲金ニ他  
 ノ便宜ヲ供スル事ハ實際不可  
 能ニ爲シ又別ニ旅行者ニシテ  
 馬賊その他ノ不慮ノ後、多クニ危  
 害ヲ被ラシムル事ハ帝政政府ニ  
 於テ其ノ責任任スル事得ルニ以テ  
 付旅行者ハ險ヲ取、却テ其ノ  
 事下ヨリ安スル事自備セ、而シテ  
 實事ニ至リテハ其ノ回手所、實事  
 ノ便宜アル事實事ノ人ニ對シテ  
 其ノ便宜ノ自由ヲ與スル事能ハル事  
 實事ニ至リテハ其ノ便宜ニ對シテ  
 交通ニ至リテハ其ノ便宜ニ對シテ  
 其ノ便宜ニ對シテ

外務省

通商手続  
 外務省地方官

MT. 3.1.1.39

257

MT. 3.1.1.39

256

3-0029

0474

電送第九三二  
光緒三十四年四月廿日  
午一時五十分發

直轄 水野公使 西園寺公使

第二三號

日清議定書に於て、四平街、營口、靉  
定、老道溝、湯河、於て、彼我占領  
區域内ニ其關係者、今日本ルニトシ、  
限ニ西至、政府ニ於テ、他ノ方、臣民力  
自己ノ占領區域内ニ入ルニテ、禁止スル

外務省

此外、四平街、湯河、於て、其事、總ニ通  
ニ平定、後ニツク、ルニテ、後、  
福、通、至、政府、漸次、其、占領  
ニ及、ル、湯河、地方、ヲ、常、教、セ、  
於、テ、五月、一、日、外、務、省、人、乃、亦、  
其、事、好、乃、大、東、海、ニ、入、ル、事、  
其、事、好、乃、官、人、亦、亦、  
之、事、好、乃、官、人、亦、亦、  
事、好、乃、官、人、亦、亦、  
以後、其、事、好、乃、官、人、亦、亦、

MT. 3.1.1.39

259

MT. 3.1.1.39

258

3-0029

0475



事用事行中、湯河内地、新  
 了、評さす、法定し、り、地、口  
 西金、有、行、中、平、街、号、生、規  
 定、し、為、西、金、人、に、対、し、直、に、各  
 ノ、自由、ノ、興、ノ、下、評、り、年、に、学、事、事、改  
 訂、ハ、有、金、以、行、と、さ、る、リ、市、地、を、  
 於、こ、に、收、入、爲、す、時、給、に、於、て、其、互  
 二、改、行、ノ、制、限、ヲ、撤、去、す、る、事、中  
 望、す、有、る、而、し、て、未、だ、一、月、百、二、百、五、  
 十、日、後、西、金、に、各、其、所、之、數、ノ、概、算、ハ

外務省

了、一、決、定、後、改、ノ、中、に、西、金、以、行  
 日、の、事、業、に、金、額、ノ、概、算、ヲ、送、り、  
 以、て、西、金、に、對、し、其、數、を、同、定、し、て、行、  
 ハ、同、日、に、於、て、四、年、間、免、せ、る、規  
 定、シ、其、中、に、西、金、以、行、カ、規、に、他、ノ  
 一、方、ノ、事、業、に、對、し、格、外、ニ、特、別、  
 優、待、を、與、へ、西、金、以、行、カ、の、事、業、に、對、  
 して、同、日、に、於、て、免、せ、る、事、業、に、對、  
 して、同、日、に、於、て、免、せ、る、事、業、に、對、  
 して、同、日、に、於、て、免、せ、る、事、業、に、對、  
 して、同、日、に、於、て、免、せ、る、事、業、に、對、

MT. 3.1.1.39 261

MT. 3.1.1.39 260



大邑ト答ル名ニ如件ニ答ル事ト  
以テ付ト答ル事ト申シテ  
庶民ト答ル事ト  
九六ト使ト答ル事ト

外務省  
庶務課

外務省

MT. 3.1.1.39 262

3-0029

0477

四半衛光  
書人字  
城為

第七七号  
内田

明治 年 月 日  
起草  
日發遣

主任

西園寺

往二田思七ノ事以テ其地ノ常ノ口有  
少田撥まリタシ

外務省

電送第九二一號

MT. 3.1.1.39

263

3-0029

0478

明治廿九年 四月三十日 起草  
同日發遣

四月三十日 葛原

郵

局長

主任

井上伯房

坂本

陸田

伊田

吉野

外務省

譯者 陸田伯房  
四月十四日 書翰 西園寺公使  
大正三年四月 井上伯房 右 井上  
右 書翰 吉野 見 井上 伯房  
二 伯房 義 井上 伯房 陸田 伯房  
伯房 伯房 井上 伯房 伯房  
伯房 伯房 井上 伯房 伯房

MT. 3.1.1.39 265

MT. 3.1.1.39 264

正印封ト奉書見たりニ此是は外  
右沙尾正印封ノ事ナリ用テ

甲号 一五五号及此二三号各又字添フ

外務省

MT. 3.1.1.39 266

3-0029

0480

寫

明治三十九年四月二十日接交

陸軍省

送達 滿鉄第一五五〇號

受第五四八三號

左記照会、本年満鉄第一一三四號  
及第一二五號に依り可成り計り  
度此旨及回答片や

明治三十九年四月十九日

陸軍大臣古田正毅

外務大臣侯爵西園寺公望殿

機密送第一三一號

外務省

満鉄倉庫に積置物等五五ノモノ

送第一三〇號

米人ダビット、ダブリュー、デシユラー汽

船二隻スル用務ノ為大連へ出張ノ件

送第一九一號

満鉄が英國貿易ノ為に第幾セラルル

送第一七八八號

英國汽船、大東海方面航路ノ件

MT. 3.1.1.39 268

MT. 3.1.1.39 267



機密送分一五〇號

鴨居下流に於て英人ノ貿易業

ニ染スル件

外務省

MT. 3.1.1.39

269

3-0029

0482

48

明治 年 月 日  
起草 發遣

内閣陸軍大臣 主任

内田 西園

第九〇號  
明治廿九年三月三日

三七九号

往電六四号ニ付

在在島外ニ地留放手續執行ノ

外務省

件ニ日一如何ノ成行トナルヤ否如何

ニ電報アリシニ其旨電報ノ報スル所

ニ依ル所請ニ付ニありテ亦一何村ガ所

放ノ明日ヲ定ムルニ付ニ同ノ儀行

スルヤノ款ニ然元未ニ在在島外ニ地

ニ請ル所請ニありテ亦一何村ガ所

ヲナス事義請アリシモノトテ亦一何村

MT. 3.1.1.39 271

MT. 3.1.1.39 270



○わが國の早世宗故、其後ナキニシテ  
聲明ニシル以上、清王政府と対する言  
を敢て、手續ヲ執ルハ、当然ノ事  
然レ、清王政府と對する言、其後、聲明  
ナシ、若シ、其後、之ヲ知悉セシ  
今日清王政府と對する言、其後、聲明  
ノ履行ヲ遲延スルカ、ナラバ、其後、  
外務省  
何處ノ責任ハ、甚シク重大ナルモ、  
アルニシト、思フ所ナク、其後、一清  
王政府と對する言、其後、聲明  
ノ履行ヲ遲延スルカ、ナラバ、其後、  
外務省  
○之、其後、其後、其後、其後、其後、  
其事、其事、其事、其事、其事、其事、

MT. 3.1.1.39

273

MT. 3.1.1.39

272

3-0029

0484

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
http://www.jacar.go.jp

中台地：向心土壌

外務省

MT. 3.1.1.39

274

3-0029

0485

特  
49

取 會 人 通 政  
調 計 事 商 務

次 大  
官 臣

No. 一 二 一 三  
( 暗 一 五 六 )

西園寺外務大臣 内田公使

北京奉天 廿九年四月廿三日 午後 一、一五、  
本省着

第八八号

奉天安東縣及大東溝開放ノ件期  
日追々接迫スルニモ係ラス未タ清  
國政府ヨリ何等ノ回答ニ接マサル  
付本日外務部、督使シタル、那桐  
ノ奏ヲん處ニ依リハ本件、閣シテハ  
曩キ、袁總督及趙將軍、電報セ  
レ、趙將軍ヨリハ、直ニ事情調査ノ



洋館  
金館

為ノテラシヤクラン及  
東縣大東溝ノ兩地ハ流遷ニ其復命  
ヲ待テ袁總督ト協議ノ上章程ヲ  
作り實行スベキ旨回電アリタルヲ以  
テ或ハ執シヨリ指是シタル期日ノ間  
合ハサルヤモ知シスト言ハリ在ノ次第  
付更ニ本官ヨリ時々督使ヲ急メサ  
ルキモ尚奉天ノ執官憲ヨリ直捷趙  
將軍へ督使スルノ方法アラハ内外相  
應シテ一層効力アラシカト思考セラル

MT. 3.1.1.39 276

MT. 3.1.1.39 275

3-0029

0486

duty free, the carrying trade  
duty which was not  
borne under the Russian  
Regime should not be  
imposed.

MT. 5.1.1.39

277

Telegram received from Br. S. Fog  
April 21. 1906.

Yours are wishfuld to print out  
the Japanese Government that  
it practically amounts to  
discrimination. Heavy duty on  
British goods coming from  
China while goods from  
Japan are admitted free.  
You are further wishfuld  
to urge that so long as  
goods arriving from countries  
other than China are admitted  
free

MT. 5.11.39

278

goods entering Saly under  
Rissian Regime. Saly was a  
free port and the Chinese Imperial  
Maritime Customs refunded  
import and coasting trade  
duties when <sup>goods</sup> they were re-exported  
from China to Saly, whether  
these goods were Chinese or foreign.  
Coasting trade duties on Chinese  
goods only might be justifiable  
if the Japanese Govt intended  
to treat Saly as a ~~free~~ Chinese  
Port which was in fact.

MT. 3.1.1.39

279

Reaction of Tokyo from

Sir E. Grey to Sir E. Satow

Trade of Tokyo.

See the answer  
of Japanese Government as interpreted  
by Sir C. Macdonald on the 13<sup>th</sup>.

The imposition of

levying Trade duties really constitutes  
a financial treatment in favour

of Japan if, as we believe, all  
goods, except Japanese, reach

Tokyo through Chinese ports.

What was the state of  
affairs under Russian Regime?

東京

Sir E. Satow to Sir E. Grey

April 18. 1908

As duties whether import or  
export have been levied on  
goods.

MT. 3.1.1.39

250

0490

書

明治廿九年四月二十日附

外務省

サライ、グレイヨリサライ、サトリ宛電信

大意

大連、通高

去十三日附サライ、マクトナルドノ電報ニ係ル日

本國政府、保障参照

外務省

沿岸貿易税、賦課ハ若シ吾等、信スルカ如ク

日本品ヲ除キ總テ貨物カ清國、諸港ヲ經

由シテ大連ニ到達スルニ於テ日本國、利益トナル

ヘキ不公平ニ取扱

露國制度、下ニ於ケル状態ハ如何ナリシヤ

千九百十六年四月十八日附サライ、サトリヨリサ



アイ、グレイ、宛電信大意

露國制度、下ニ在ニハ大連ニ輸入スル貨物：

對ニ輸入税ト沿岸貿易税ト問ハス何等ノ

租税ヲモ賦課セラレサリキ當時大連ハ自由港

ニシテ清國海關ハ貨物、清國品ニシト外國品

タルトヲ論セス清國ヨリ大連へ再輸出セラレタルトキ

ハ輸入税及沿岸貿易税ヲ拂戻シタリ日本

外務省

國政府ニシテ大連ヲ清國港トシテ取扱ハント欲

セハ軍ニ清國品ニ限リ沿岸貿易税ヲ賦課

スルヲ得ルカ如シ尤モ同政府ハ大連ヲ清國港

ト認ムルカ如キコトナカルヘシ

千九百六年四月二十日 美國外務大臣サー

グレイヨリ 接手シタル 電報

日本ヨリ 輸入スルニ 貨物ニ 課税セザルニ 清國ヨリ

輸入スルニ 課税スルニ 差別ナシ

官ハ宜シク 世事ヲ 日本政府ニ 開陳セラルヘシ 清國

以外ノ 國ヨリ 輸入スルニ 貨物ノ 課税ナル 限リハ 道路

國ノ 制度 課税セザリシ 沿海 諸島 課税スヘキ

外務省

モノニアラサルコトモ 合時ニ 開陳セラルヘシ

52

取 會 人 通  
調 計 事 商

次 大  
官 臣  
政 務

一 二 三 九  
暗

No.

西園寺大臣

内田公使

3

北京癸  
東京着  
三十九年四月  
廿五日  
后七三〇  
二二〇

第九〇號

奉天外ニテ所開放ノ件清國政府ヨリ本日公文ノ  
回答アリ北洋大臣及奉天將軍ニ於テ母目下必要  
ノ手續中ナルモ日清及米清條約規定ニ依レハ  
外國人居留地域ノ撰擇及居住貿易規則ハ相  
手國ト協議ノ上定ムヘキコトニナリ居ルヲ以テ急  
速ニ決定シ難ク期ヲ限リテ開放スルカ如キハ困  
難ナリ就テハ清國政府自ラ條約ニ照シテ地ノ撰  
擇規則等ノ編制ヲナシタル上協議ニ及ビ開放  
ノ期ヲ是ムヘシト申来レリ就テハ往電第八八號  
未尾ノ通り奉天ニ於ケル我官憲ヨリ趙將  
督從スル様致度シ

伊山  
本參軍

MT. 3.1.1.39

281

ノ期ヲ是ムヘシト申来レリ就テハ往電第八八號  
未尾ノ通り奉天ニ於ケル我官憲ヨリ趙將  
督從スル様致度シ

MT. 3.1.1.39

282

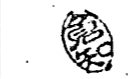
53

信託局 陸軍省 伊山

3

明治 年 月 日  
起草  
日發遣  
主任

老  
蘭



電送第九九二號  
明治九年九月廿四日 十一時

立  
由田侯

西園寺

第 号

貴電九〇号、同し

清王の存、於手續の問題、為、  
外務省

外務省

孝天其池ノ飛放ハ通延スルニ事  
即チ、厚ク遺憾トスル所ナリ然レモ  
ニ事不討ハ既ニ指統トシテ日多軍事  
上外ハ人及射不能船ノ出入  
兵好ナキ旨ヲ聲明シリハテ以テ  
人ハ始テ、則日以後必ク遺憾ニ入

MT. 3.1.1.39 284

MT. 3.1.1.39 283

未だ一ノ事ハ未だ未だニあり速ニ開放ノ  
 手續ヲナカレバ限ク心速クノ商制ヲ  
 生カシキニ明カレバ次分ナリ就テハ  
 行フおテハ<sup>本法亦之ヲシテ</sup>其能クニ  
 在東島ノ向  
 出ル旨ニ交ル國事ノ多事トモ  
 儀ヲ速ニテ此際一日ニ至カレ  
 外務省  
 開放ノ手續ヲ終ルヤ時ニハ  
 馬ノ情不<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>況<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>支<sup>レ</sup>リ  
 利<sup>レ</sup>天ニ<sup>レ</sup>我<sup>レ</sup>陸軍省<sup>ニ</sup>テ  
 二智<sup>レ</sup>促<sup>レ</sup>ス<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>意<sup>レ</sup>少<sup>レ</sup>シ  
 心<sup>ニ</sup>速<sup>ク</sup>考<sup>テ</sup>お<sup>テ</sup>地<sup>ニ</sup>テ  
 手<sup>レ</sup>交<sup>テ</sup>海<sup>ニ</sup>也<sup>レ</sup>

MT. 3.1.1.39

286

MT. 3.1.1.39

285

54

取調 會計 人事 通商 政務

大臣 次官 第九二號

No. 一六三

北京癸三十九年四月廿七日  
東京着

西園寺大臣 内田公使

貴電第八〇號ニ関シ那桐ニ面會シテ電訓ノ趣旨ヲ以テ談シタルニ本件ニ就テハ實地調買ヲ安東縣大東溝へ派遣シアリ又税関吏員ヲモ目下人選中ナルヲ以テ可成速急ニ運フ様取計フヘシトノ旨袁總督ヨリ電報アリタル由ヲ語リタルニ付本官ハ帝國政府ニ於テ今般ニ地開放ノ期日ヲ定メタル趣旨ヲ委曲説明シ尚該地方ハ引續キ我軍占領ノ下ニアルトナレハ地域ノ選定及章程ノ取極メ等

幣原

MT. 3.1.1.39 287

ニ関シテハ實地ニ就キ協議ヲ試ムル方便宜ナルヘキ旨ヲ述ヘ既ニ帝國政府ニ於テハ夫々委員ヲ任命シ赴任ノ途ニ就キタルコトナレハ奉天ニ於ケル當該官憲ハ勿論趙將軍ヨリ安東縣ニ派遣セル委員ハ唯單ニ調査事務ニ従事スルニ止マラス進ンテ我委員ト直接協議ニ得ルノ権限ヲ與ヘラル、様電訓セムコトヲ請求セシニ那桐ハ直ニ慶親王ト協議ノ上何分ノ回答スヘキ旨ヲ答ヘタリ

MT. 3.1.1.39 288

3-0029

0497

大臣 No. 一六五  
暗

西園寺大臣

内田公使

北京發 三十九年四月廿七日 前九日  
東京着

次官 第九四號

政務 貴電第八。號ニ関シ萩原書記官ノ談ニ依リハ清  
通商 國當該官憲ト協議スルコトニ付何等權限ヲ委  
人事 任セラレ居ラザルニ付同書記官並同部領事モ  
會計 若シ同様ナラハ同領事ハモ等シク相當ノ權限  
取調 ヲ電報ニテ附與セララル、コトニ致シタシ



MT. 3.1.1.39 289

明治三十九年四月二十七日

外務省

明治三十九年四月二十七日

陸軍大臣 陸軍省

外務省 西園寺公使

大連 北支那沿岸ノ貿易ノ海峽ニ関スル英國  
政府ノ主張ニ對シテ  
外務省 西園寺公使

MT. 3.1.1.39 290

明治三十九年八月廿七日 陸軍

3-0029

0498

55

大臣  
次官

No. 一二八〇  
(暗二二八)

北京泰  
本省着  
廿九日  
廿八日後一〇二二  
廿九日前二二五

西園寺外務大臣  
内田公使

3

政務  
通商  
人事  
會計  
取調

第九七号

清國政府ハ当地未國公使ニ對シ公  
文ヲ送り奉天安東縣等開放ノ件ニ  
關シ日本國政府ヨリ云々ノ照會アリ  
タルカ右ノ就テハ清國政府ヨリ土地  
ノ權釋ニ章程ヲ定メテ文涉ニ及  
カセシト通知シタル旨同公使ヨリ本  
官ニ語リ土地權釋等ノ事項ハ清

總分ス

MT. 3.1.1.39

291

國自ラノ決定ニ任スベキニ非ス條約  
ノ規定通り相手國ト會同高議ス  
ハキモノナルカ素ト該地方開放ニ關シ  
テハ日未相協力シタル事ナレハ前  
記事項ノ高議ニモ相悞同從事スル  
事可然ト相語り其方法ニ對スル本  
官ノ意見ヲ承知シタリコト、有本  
官ハ之ニ對シ右ハ一應帝國政府ニ電  
問スベキ旨奏ハタルニ其回答アル迄ハ  
差當リ独立ノ行動ヲ見合スヘシト語  
レリ本官ハ帝國政府ノ方針カ奉天

MT. 3.1.1.39

292



ニ於テモ特ニ執事官居留地ヲ要  
 求スルコトアルヲ承知セシメ之ヲ決定ハ  
 秋原書記官出張後其意見ヲ徴シ  
 タル後ヲ待ツル、之ヲカト察セラルルモ  
 要スル、執事官居留地ノ問題ハ別  
 トシ各國共同居留地ノ設是ニ因リテ  
 ハ日米共同居留地ヲカルマキニヨリ  
 粵省未云使、回春ニテ、可然ヤ電訓  
 ヲ乞フ

293

MT. 3.1.1.39

大臣  
 次官  
 No. 一八五  
 (暗一五)

第九九号  
 西園寺外務大臣  
 内田公使

北京泰  
 本省着  
 廿九年四月廿九日  
 一五  
 〇

政務  
 通商  
 人事  
 會計  
 取調

往電第九二号ニ因リ昨日那桐ノ語  
 慮ニ依リ同人ハ直ニ本官要求ノ趣  
 旨ヲ慶親王ニ傳ハタルニ目下安東  
 縣ハ派遣中ノ委員ハ地位低キモ  
 ナルヲ以テ我委員ト帛高ニ得ル権限  
 ノ與フンコト取計難シト趣アリ尤兩  
 放ノ準備、付テ人事務ノ敏捷ヲ計ル

293-1

MT. 3.1.1.39



56

取調 會計 人事 通商 政務

大臣 一三九四(暗)

北京發 九年四月廿日 一三二五

西園寺外務大臣 在清 内田公使

信 第一〇號

奉天外二箇所開放、件。関シ米國公使ト談  
話、結果一昨年二月九日付ニテ外務部ヨリコン  
ガア公使ニ宛奉天及安東ハ既ニ清國ヨリ自  
ラ開放シタル地ナレバ右兩所ニ駐在リ命セラレタ  
ル米國領事官ヲ承認スル旨ヲ答ハタル公文

総外、

あま

MT. 3.1.1.39

295

為ノ奉天城外ハカイフ局アムニ  
設ク月下類切リ、所急キツ、アムニ以テ  
地、運定及章程ノ草案等、不  
日完成ノ運、至ンハ、吉更、趙將軍  
及袁總督ヨリ來報アリタム由ヲ語  
レリ

MT. 3.1.1.39

294

米國公使館ニ存在セルコトヲ發見セリ右此際  
當國政府ニ對スル交渉上最モ有力ナル材料  
ト信ゼラルニヨリ本官ハ米國公使トカヲ協セ之  
ヲ利用スル積リナルガ帝國政府ニ於テ若シ本  
官ガ米國公使ト恠同ノ動作ヲ取ルコトヲ不  
便トセラル点アラバ速カニ回訓アリタシ

MT. 3.1.1.39

296

3-0029

0502